



子育て支援情報が満載!
『くにたち子育てサポートブック』を
ぜひ、ご活用ください!



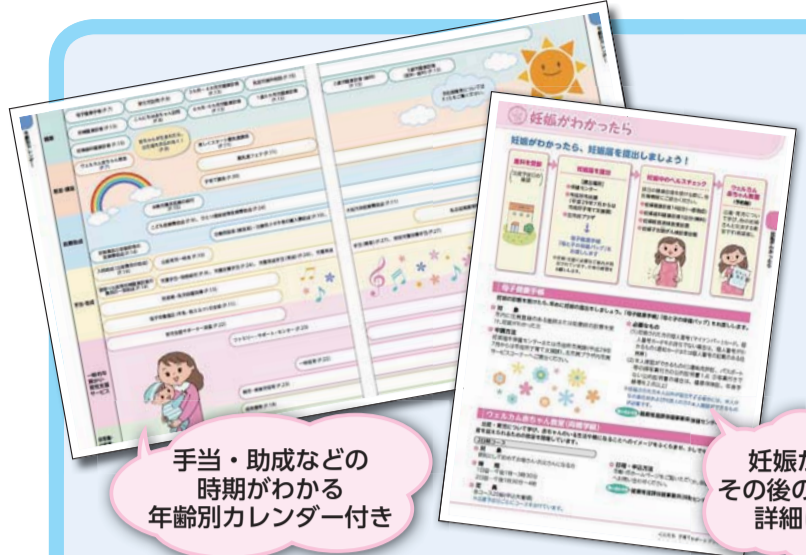
『くにたち子育てサポートブック』表紙。元気な子どものイラストが目印です。

冊子は、左記の場所にて無料配布しています。

配布場所 市役所子育て支援課 子ども家庭支援センター(富士見台3-21-1)、保健センター(富士見台3-16-5)、北市民プラザ(北3-1-1 9号棟)、南市民プラザ(泉2-13-2 1号棟)、中央図書館(富士見台2-34)、公民館(中1-15-1)

※市ホームページ「子育て支援ページ」からもご覧いただけます。

「出産したら受けられる手当はどんなものがあるの?」「健診や予防接種の時期はいつ?」など、子育てに役立つ内容を掲載しています。ぜひ、ご活用ください。



手当・助成などの時期がわかる年齢別カレンダー付き

妊娠から出産、その後のケアまでを詳細に紹介!

「くにたち子育て応援アプリ」に、ご登録ください!



スマートフォン用アプリ「くにたち子育て応援アプリ」でも、子育て世帯の方へ情報発信をしていますので、あわせてご利用ください。

スマートフォン等で下の各QRコードを読み取ると、アプリのダウンロードページにアクセスできます。

▲iPhone用 (App Storeへ)

▲Android用 (Google Playへ)



子どもの居場所づくり事業に補助金を交付します

市では、平成29年度に地域における子どもの居場所事業を実施する団体および個人へ、補助金を交付します。

補助対象事業 ①小学生～18歳を対象とし、子どもたちが気軽に立ち寄り、自由に過ごせる居場所を提供する事業②0歳～18歳を対象とした食の支援または学習支援を通じて、子どもや子育て家庭への居場所を提供する事業

※いずれも、年間を通して事業を行う団体および個人に限りません。

補助対象 ①市内で青少年育成の活動をしている、または青少年育成の活動を予定している団体および個人であること②市内で青少年育成の活動をしている団体および個人であること

※いずれも法人の有無は問いません。

補助金額 ①1事業につき35万円が上限②1事業につき50万円が上限

※①②あわせて予算の範囲内(平成29年度予算額は20万円)とします。

※①②を重複して応募することはできません。

応募要件 ①所定の申請書類の提出②提案内容の公開プレゼンテーション(5月16日(火)午後7時より実施します)

募集要項配布場所 市役所児童青少年課児童・青少年係、公民館(中1-15-1)、中央図書館(富士見台2-34)、北市民プラザ(北3-1-1 9号棟)、南市民プラザ(泉2-13-2 1号棟)、子ども家庭支援センター(富士見台3-21-1)

※市ホームページから「子どもの居場所づくり事業」を検索のうえ、ダウンロードできます。

申込 4月10日(月)～25日(火)に、募集要項をご覧のうえ、所定申請書類を添えて、担当係へ直接お申し込みください。(受付:平日午前8時30分～午後5時15分)

問い合わせ 〒186-8501 富士見台2-47-1 児童青少年課児童・青少年係

☒sec_jidosyonen@city.kunitachi.g.jp



緑川東遺跡から出土した大形石棒 4本が重要文化財に



▲緑川東遺跡から出土した4本の大形石棒。

平成29年3月10日、緑川東遺跡(青柳1-3丁目)から出土した4本の大形石棒を重要文化財に指定するよう、文化庁の諮問機関である文化審議会から文部科学大臣に答申がなされました。この結果、官報告示をもって、正式に重要文化財に指定されることが、ほぼ確実となりました。

通常、石棒は被熱していたり破損している事例が大半ですが、この石棒は、ほぼ完全な形のもので4本並べられた状態で出土したことから、縄文時代の石棒祭祀の具体的なあり方を考えるうえで、極めて高い価値があると評価されました。市が所有する文化財としては、初めての重要文化財指定となります。

郷土文化館(谷保6231)では現在、この石棒のうち2本を展示しています。ぜひ、ご覧ください。

問い合わせ 生涯学習課社会教育・体育担当



旧国立駅舎再築物語 市民の方からの思い出編

「国立駅舎に見守られて」(その1) (谷保在住・遠藤初代さん)

私は、6人兄弟の長女として国立で生まれ育ちました。当時小学生だった私は、国立駅前にあった自宅から、国立第一小学校まで一橋大学を横切って、畑の中を通り、南武線を越えて、一生懸命歩いた記憶があります。また、あの時分、学校が終わると、この家庭も幼い兄弟の子守りをするのが当たり前で、背中に兄弟を背負ったままイチョウの木に登ったり、大学通りでゴム飛びをしていました。

遊びと言うと、駅前での子どもはいたが、思い出すのは、当時の国立駅を利用する人も、駅前のロータリーを通る人も少なく、駅前には、タンポポ、ねじり草や、ぺんぺん草など、今では想像もつかないほどの草で覆われていました。子どもの私は、その草同士を結んで輪にしておいて、次の日の朝、国立駅に向かって、通勤する大人が、草にひっかかって、少しだけつまづく様子を見て楽しんでいました。

私にとって、当たり前の風景としてあった国立駅舎は、当時の何気ない私たちの日常を見守ってくれていたのではないかと思います。

あなたの旧国立駅舎の思い出を市報に掲載しませんか

申込 旧国立駅舎の思い出を200字程度でまとめ(様式自由)、掲載する際の作者名としてニックネームやイニシャルなどを明記のうえ、郵送・ファクスまたはメールで担当係へお送りください。選考のうえ、市報で紹介させていただきます。

問い合わせ 〒186-8501 富士見台2-47-1 国立駅周辺整備課国立駅周辺整備担当

☒sec_kuniseibi@city.kunitachi.g.jp



市制施行50周年連載企画 くにたちの歴史にタイムトリップ!

平成29年1月1日で、国立市は市制施行50年を迎えました。市がどのように誕生し発展してきたのか、その歴史を紹介します。

第3話 「アユ漁、鵜飼が楽しめた時代」

大正期、多摩川には渡し船が通っていました。谷保村の人々は日野橋が開通するまで、この渡し船を利用して高橋不動へ参詣していました。

また、多摩川はアユの優良な産地とされ、江戸時代には、このアユを将軍家に納めていたそうです。このころの多摩川の清流さをうかがい知ることができるとお話をします。

当時の多摩川では鵜飼も盛んで、谷保村でも代々世襲で鵜飼を営む家がありました。しかし、東京の開発のために多摩川の砂利が乱掘されると、アユ漁も鵜飼も廃れてしまったそうです。

今また多摩川は、住民の方々をはじめ、多方向からのご協力により、再び清らかさを取り戻しつつあります。市が毎年夏に開催するアユの投網漁イベントは、子どもたちも多数参加し、大盛況です。

※右記は、市の有償刊行物「くにたちの歴史」国立市史を参考にしています。

問い合わせ 市長室広報担当



▲谷保村の鵜匠たち。多摩川では、鵜匠が川を下りながら鵜を操る「徒鵜飼」が主流でした。(画像:『くにたちの歴史』より)